中洗（なかあらい）2 遺跡

遺 跡 番 号　382-198
調 査 次 数　第 1 次
所　在　地　山形県東置賜郡川西町大字時田地内
北緯・東経　37 度 58 分 36 秒・140 度 4 分 2 秒
調査委託者　山形県置賜総合支庁建設部道路計画課
起 因 事 業　道路改築事業　国道 287 号米沢川西バイパス
調 査 面 積　2,100㎡
受 託 期 間　令和 5 年 4 月 3 日～令和 6 年 3 月 29 日
現 地 調 査　令和 5 年 6 月 1 日～9 月 22 日
調査担当者　齋藤健（現場責任者）・髙桑登・小林圭一・志鎌久悦・小幡桃花
調 査 協 力　川西町教育委員会
遺 跡 種 別　集落跡
時　　代　古墳時代、奈良・平安時代
遺　　構　溝・竪穴住居・掘立柱建物・土坑・柱穴
遺　　物　縄文土器・石器・土師器・須恵器・陶磁器　（文化財認定箱数：30 箱）

遺跡位置図（S ＝ 1:50,000）

調査の概要

中洗 2 遺跡は、JR 米坂線中郡駅の北約 800 mに位置し、事業実施に先立ち新規に発見された遺跡である。

今回の調査で、遺構として竪穴住居が 5 棟、掘立柱建物が 3 棟、溝が 4 本などが発見された。調査区を東西に横切る細い SD12 溝だけが江戸時代のもので、残りは古墳時代後期のものとみられる。

竪穴住居跡は、圃場整備により激しく削平されており、床面のみや貼り床の一部のみ残存というものばかりであった。しかし、ST1 竪穴住居は、1 辺が 8 mほどある大型の竪穴住居であり、周囲に周溝が巡らされていた。カマドの痕跡もあり、出土する遺物から、6 世紀ごろの古墳時代後期の時期であると考えられる。他の竪穴住居からも、同時代の遺物片が出土しており、ほぼ同時期に存在していたとみられる。

また、調査区外に広がる半円形の SD9 溝は周溝と考えられるが、内部に住居や埋葬施設などの遺構は確認できなかった。その周溝内からは、まとまって古墳時代後期の甕や壺などの土師器が出土し、ST1 竪穴住居と同時期に存在したとみられる。

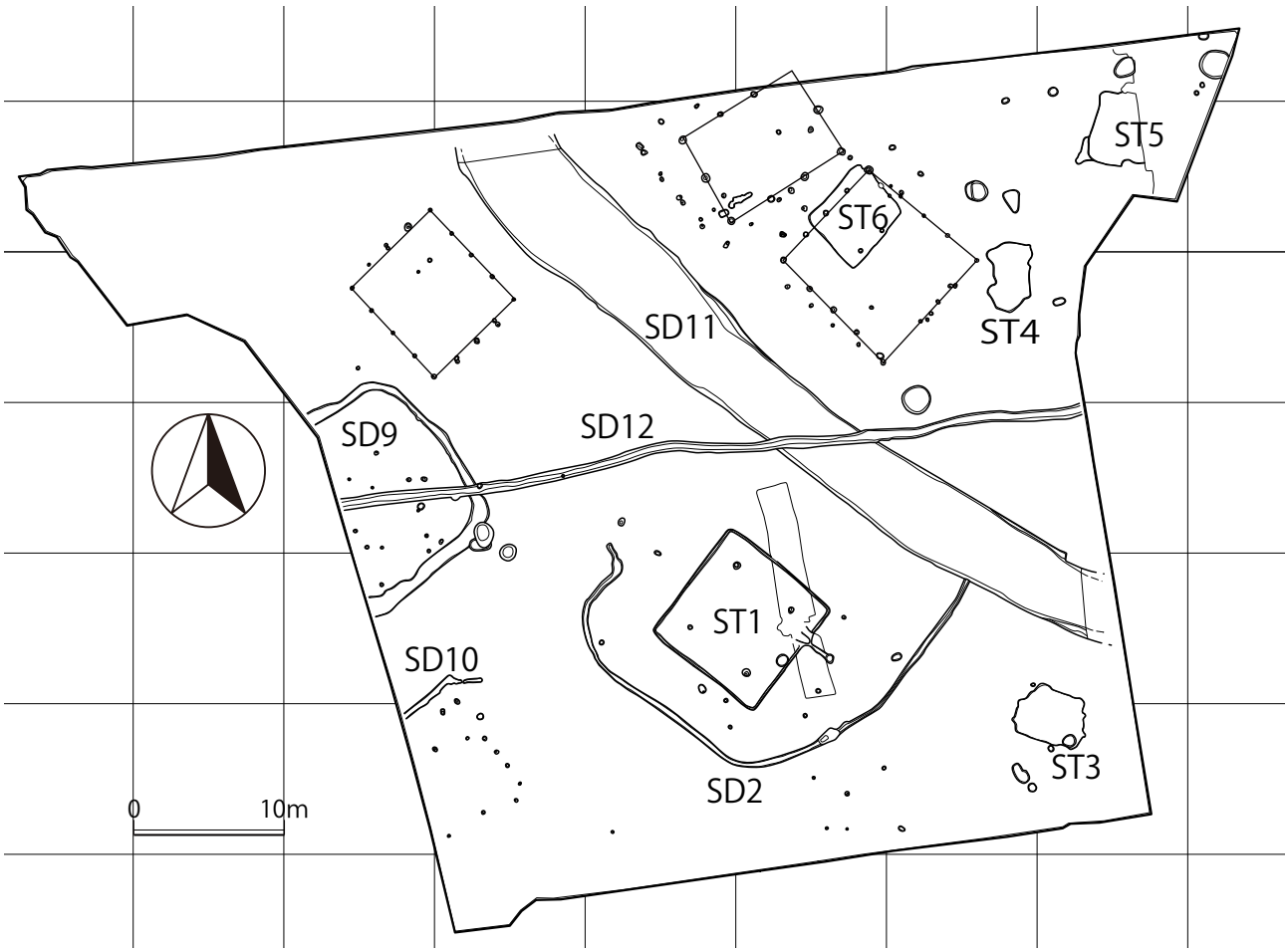
掘立柱建物が 3 棟検出された。1 棟は ST6 竪穴住居と重複しており、一部の柱穴が竪穴住居の床を剝がして発見されたことから、竪穴住居よりは古いとみられる。

南東から北西へ調査区を横断する幅 6 m、深さ 1 m ほどの SD11 大型溝がある。壁面をほぼ垂直に掘り下げ、溝床面はほぼ平坦になっている。底からは同じく古墳時代後期の遺物が中心に出土した。ST1 竪穴住居に伴う周溝を削平している事から、ST1 竪穴住居よりは新しいと考えられる。この溝は調査区外に伸びており、正確な規模や性格は不明である。

まとめ

今回の発掘調査で、中洗２遺跡が古墳時代後期の集落跡であることが明らかになった。当遺跡の約 1.5km 北には、ほぼ同時期の太夫小屋２遺跡がある他、約 6km 北には古墳時代中期から後期を中心とした下小松古墳群があり、古墳時代の遺跡が比較的多い地域であり、中洗２遺跡との関係が注目される。

また、周溝を伴う大型の竪穴住居や大型の溝など、通常の集落とは一線を画する遺構が検出されたことが注目される。特に、古墳時代後期の周溝を伴う竪穴住居は、県内や近県では類例を確認できない。



遺構配置図 (1:500)

写真１　調査区全景

写真２　ST1 竪穴住居跡と周溝の完掘状況